



あっ音楽が踊りだした！／**DOLBY SOUND SYSTEM**
映像で見るドルビー・サウンド 限らない感動の広がり……

WALT DISNEY'S
Fantasia *
ファンタジア

文部省選定 **DOLBY STEREO**

アカデミー特別賞受賞

ウォルト・ディズニー・ピクチャーズ作品〈テクニカラー〉
編曲●レオポルト・ストコフスキー／指揮●アーヴィン・コスタル／演奏●フィラデルフィア管弦楽団
製作監督ベンジャミン・スティーヴン／脚本監督ジョー・グラント／ディック・ヒューマー／音楽監督エドワード・ヘンリー／東宝配給
©THE WALT DISNEY COMPANY



ファンタジア

ファンタジアを色どる 名曲の数々

“トッカータとフーガ・二短調”(バッハ作曲)
“組曲くるみ割り人形”(チャイコフスキー作曲)
“魔法使いの弟子”(デュカ作曲)
“春の祭典”(ストラヴィンスキー作曲)
“交響曲第6番田園”(ベートーベン作曲)
“時の踊り”(ボンキェリ作曲)
“禿山の一夜”(ムソルグスキー作曲)
“アベ・マリア”(シューベルト作曲)

編曲◆レオホルド・ストコフスキー
指揮◆アーウィン・コスタル
演奏◆フィラデルフィア管弦楽団

解説

ウォルト・ディズニーは音楽家ではありません。製作に携わった多くの画家も音楽の専門家ではありません。彼らは、良質の音楽を熱心に聴く人々です。音楽を絵に表現するという素晴らしい問題に直面し、名曲の持つムードや、情景、色彩、性格をつかみとって、その音楽そのものをスクリーンという大きなキャンバスに描き出すことに、努力したのです。

『ファンタジア』は、音楽家の解釈ではなく、画家の解釈によって作りあげられた映画です。これがウォルトの製作意図であり、音楽を専門的に聴くだけでなく、自由自在に空想を思いめぐらせ、美しいファンタジーでも描写すべきだと彼は考えたのです。

このウォルトのイメージを、“眼で鑑賞する音楽、耳で味わう絵画”——映画『ファンタジア』に現出させたのは、有名な音楽評論家・作曲家・作家・ラジオ解説者のジェイムズ・テラーと、偉大なる名指揮者レオポルド・ストコフスキー、世界的な最高水準を誇るフィラデルフィア管弦楽団です。こうしてウォルト・ディズニーは、“良い音楽を大衆に”という念願をようやく実現し得たのです。

そして今回ディズニー・プロダクションズでは、より優れた音響効果で楽しんでいただくために、最先端のデジタル録音方式で新たにダビングし直して、ドルビー・ステレ

オ版を完成させました。

さらに'77年に逝去したストコフスキーの永遠なる遺志を継承するため、指揮者に巨匠アーウィン・コスタルを起用しました。

コスタルは、ストコフスキーに負けるとも劣らない指揮ぶりを見せたのです。

映像と音楽の常識を破った、画期的な試み

素晴らしい音楽には、美しい絵画がある……。

映画に革命をもたらした『ファンタジア』は、名曲という観念にとらわれずに、ディズニーの芸術家たちが持つ独創的なセンスで、音楽と色彩を見事に調和させた、全く新しい娯楽映画の傑作です。

ベートーベンの「田園交響曲」に、彼らはユーモラスな面白さを見出して、及びもつかない発想で、メロディの動画化に成功しました。またバッハの「トッカータとフーガ」では、動く抽象画の美をうみ出し、「春の祭典」では、バレエ曲という概念にとらわれずに、壮大な地球創生をテーマとして、ダイナミックに躍動する音楽を創造したのです。

このようにディズニーのアーチストは、音楽に対する卓越した感性で、音楽からの感銘を絵画に描写し、映像と音楽を融合させて、『ファンタジア』の芸術性を高めたのです。

ウォルト・ディズニー・ピクチャーズ 作品〈テクニカラー〉

配給 ■ 東宝株式会社

東宝

8月下旬〈夏休み〉ロードショー公開!

前売鑑賞券絶賛発売中! (一般1,200円/学生1,100円) ● 当日料金

一般1,500円/大学・高校1,300円
中学1,200円の処

● 東口伊勢丹前シネタウン

新宿文化シネマ2 (354)
2098